

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4075300188
法人名	有限会社 アルファーレグルス
事業所名	グループホーム もくれん
所在地 (電話番号)	福岡県鞍手郡小竹町大字勝野2777 (電話) 09496-2-3766
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	9 人
常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造瓦葺平屋建造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費	有
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小竹町立病院 坂本医院 加藤歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな環境の中、自然に触れ合いながらのんびりと、家庭的な雰囲気の中で暮らせるように努めている。ホームでは毎月の外出(買い物・観賞・見学等)や一泊旅行など入居者の喜ばれる姿を励みに職員・入居者が一緒に過し、共感しあえる関係を築いている。今年6月にはホーム前にグループホームもくれんのゲートボール場の開校式を行い、町内会・入居者の家族・運営推進委員の方々に参加してもらい、近くの小学校の生徒やゲートボール愛好会等の交流を図り、地域に根ざした開かれた施設運営を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画書の入居者・家族の署名捺印・研修等の記録・地域住民との交流が前回の改善項目となっていた。入居者・家族の要望の確認や研修等の話し合いも行われているが、きちんとした記録がまだ不十分である。地域住民との交流に関しては3月より『もくれんだより』を刊行し、ホームの近況・活動を報告し、地域への交流を深めるように努めている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が行っているため、職員全員には伝えられておらず、項目の内容が理解できていない。そのため取り組みが管理者主導になっている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2月に1回、役場福祉課係長・民生委員・介護保険認定調査員・入居者の家族・入居者の参加にて開催している。主な内容はサービスの質の向上を目指して事業計画・外部調査の報告等の議事録を作成し、意見を出し合い、質疑応答をしよう点と改善点を見出している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月、入居者の状況報告を電話で連絡したり、『もくれんだより』や写真を送付している。入居者の誕生日には家族に必ず出席をしていただくようにしている。家族が意見を出しやすいような雰囲気づくりを心がけている。今後、玄関に意見箱を設置するようにしている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	秋の公民館祭りや町主催の行事には参加している。地域住民とはゲートボールを通じて交流を図りたいと努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の人格を尊重し、寄り添い、語らい、傾聴と誰にでもわかりやすく、事業所独自の心のこもった理念をつくりあげているが、地域密着型サービスとしての理念が加えられていない。	○	今までの理念に加えて、地域密着型サービスとして、地域の中での役割を目指した事業所独自の理念を作り上げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、理念を唱和して理念を意識しながら、入居者のケア・自立支援・在宅復帰へと最終目標とし、毎日を実践・取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館まつりや町主催の行事に参加し、地域での定期的な、組長会議に参加し、施設の理念・運営活動を理解してもらうように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しているが、評価を活かした具体的な改善は管理者主導型になっている。	○	外部評価について、管理者、職員とで評価の意義等やねらいについて考え、話し合いをし、評価を活かせるよう、全員で取り組みをしてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2月に1回、役場福祉課係長・民生委員・介護保険認定調査員・入居者・入居者の家族の参加にて開催している。意見を出し合い、質疑応答をしサービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外で話し合いが出来る機会がなく、取り組みが出来ていない。	○	管理者は他の事業者との交流や、つながりが出来ているので、連携をとり、今後は市町村に事業所の実情や取り組みを理解してもらえるよう、支援をお願いし積極的に働きかけ取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については資料等を収集しているが、全職員に十分に周知はしていない。今後、入居者の家族等のために玄関に資料を置きたいと思っている。	○	地域権利擁護事業や成年後見制度について、管理者と職員とで勉強会等を開き、理解し今後活用できるよう取り組みを期待したい。
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の現金出納帳をつけ領収書添付にて請求時に報告、送付する。入居者の健康状態や暮らしぶりなど電話で報告したり、『もくれんたより』と一緒に写真を同封し送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族が意見を出しやすいよう、雰囲気づくりを心がけ、職員も受け入れる体制を整えている。今後、玄関に意見箱を設置するようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が定着するよう、福利厚生を充実させるよう努めている。やむをえず、離職の場合は入居者のダメージを最小限におさえるよう他の職員がこころ配りをし、接するように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は職員の採用にあたり、性別や年齢等は関係なく採用している。職場で良い人間関係や雰囲気作りに気を配っている。職員には研修や講習会への参加を奨励している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する資料を集め、午後のミーティングで話し合い、啓蒙活動をしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員に社協の実務者研修や、3年未満でも民間運営の講習を断続的に受けさせて、職員の質の向上に努めている。事業内研修は2ヶ月に1回行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の同業者との交流や話し合いを行なっているが、職員は他の事業者との交流はまだ十分に出ていない。	○	他の事業者との交流や訪問、勉強会は職員の意識を高め、質の向上につながるので断続的に取り組むことが望まれる。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後は1日から10日間程度は状態を観察し、本人、家族の納得が得られるような介護計画を作成しているが、入居前からの馴染みながらの関係づくりまではなされていない。	○	本人、家族が納得し、安心してサービスが受けられるように、職員や利用者と触れ合う機会作り等馴染みながらの関係作りが望まれる。
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に話しかけながら傾聴し、家庭と同じような雰囲気と一緒に洗濯物をたたんだり、食事作りをしたりと、共に1日を過ごしている。入居者から生活していく上で学ぶ事も多く、良い関係を保てるよう努めている。		
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体機能面のアセスメントはしっかりとられているが、本人の暮らし方の希望や、思いの把握が記録として残されていない。	○	身体機能面のアセスメントのみでなく、本人が望む生活はどのような生活なのかをしっかりと把握し、職員全員が情報を共有するために、記録として残す事が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日午後の時間にミーティングを行い、職員の意見を聞き、それをもとに、月1回管理者、主任、責任者、ケアマネージャーが話し合いをしている。家族には日々の面会時に聞き取りをしたり、面会の少ない家族には、電話で聞き取りをして、介護計画に反映させている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に短期目標を3ヶ月に定め、期間ごとに見直しを行っている。変化が生じた場合は、本人、家族、職員とで話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出や外泊は自由に行っている。受診は基本的には、家族に対応して頂いているが、家族で対応できない場合は、職員が受診同行をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが町内の方なので、家族対応でかかりつけ医の受診をしている。家族対応が困難な場合は家族と相談をして、協力医院への受診を職員同行で行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針とその体制」を文書化しており、家族に説明し、協力医療機関との話し合いを行い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
、					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーを尊重した言葉かけや、対応がなされていた。記録簿は事務所に保管され、職員以外は自由に見られないようになっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、常に入居者の立場に立ち、入居者のペースに合わせた生活をしている。散歩等の希望があれば、出来るだけ希望に添うように対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゴマすりを手伝ったり、下膳を手伝ったりされていた。当日は、調査員2人が一緒に食事をさせて頂いた関係上、席の都合で管理者のみが入居者と一緒に食事をされていたが、普段は職員も一緒に食事をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回11:00から15:30頃までと決めているが、一人ひとりゆっくと入っていただいている。利用者が重度化していて、特に要望や訴えは無い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、畑の苗植え、収穫、食事の下準備、カレンダー作り等、一人ひとりの力や、趣味等を活かした、役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にあわせ、散歩や買い物等戸外に出かける機会作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や、職員は居室や、日中玄関に鍵を掛ける弊害を理解しており、6:00から19:00頃までは玄関に鍵を掛けていない。居室は常に鍵は開けている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は防火管理者の資格を持っており、消防計画書をたて、年2回避難訓練を行っている。職員は連絡体制、避難経路、避難場所を理解していた。今後は地震、水害等の訓練もしていきたいと思っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は行っていないが、栄養バランスを考えた食事作りを心がけている。水分摂取量は記録され、一日を通じ、水分摂取量が確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分にはソファや、趣味の品、テレビ、運動器具が置かれ自由にくつろげるようになっている。不快な音や光がないように配慮されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は広々としており、好みの家具や、仏壇、装飾品が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように配慮されている。</p>		